

佐瀬一洋・順天堂大学教授が

出張授業

東京都世田谷区の都立園芸高校で3月19日、日本対がん協会の協力で行われた。講師は、循環器の専門医であり、自身も骨軟部肉腫という希少がんの経験者である佐瀬一洋・順天堂大学大学院教授。1、2年生の生徒約280人を対象に、がんについて約70分の授業を行った。

佐瀬教授は、9年前に悪性の骨軟部肉腫を発症し、手術の前後2年間にわたって抗がん剤による治療を受けた経験を持つ。授業で佐瀬教授は、病気がわかったときには、同じ病気を扱った

映画やドラマが作られていて、いずれも主人公が亡くなる悲劇として描かれて、悲しい気持ちになったが、生存率が上がるという新しい治療法の論文に出会い、乗り切ってきたことを紹介。

その上で、文部科学省がホームページで公表している「がん教育推進のための教材」のライド画面や対がん協会が作成したアニメ動画教材「がんって何？」も使いながら、①がんはだれでもなる可能性のある身

近な病気で、もはや不治の病でない②多くのがんは予防と発見が有効③正しい情報を得ることの大切さ——の3点について、わかりやすく解説した。



佐瀬教授の授業